

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	地域密着型サービスとして理念を見直し、新たに「住み慣れた地域で、その人らしい生活」と謳っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各階に掲示し、全職員名札の裏に理念を記載したものを入れ、いつでも見ることが出来るようにしている。管理者は日常的に、運営理念について話すようにしており、ミーティングでは理念に基づいてどのようにケアしていくべきか話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の訪問時や家族会、運営推進会議の際には利用者の方々の生活の様子と合わせて、当施設の理念に基づいた援助について話している。また、施設便りを月1回発行し、家族や地域の方々に理解していただけるよう配布している。		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物など、外出の際は、近隣の方へ挨拶や声をかけをし、顔見知りになっている。散歩の時には、近所の方の飼っている猫を見せてもらい、交流を図っている。顔見知りになった方が、お花やお菓子を差し入れに訪問されて、利用者とは交流されている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の夏祭りや文化祭、清掃活動など、積極的に参加している。また近隣の保育園や小学校との交流会も積極的に開催している。施設行事には地域の方への呼びかけを行い、交流の機会を増やせるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々に、高齢者の心身状態をより理解していただけるよう運営推進会議で高齢者疑似体験を行うなど、学習の機会を作っている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、外部評価の結果についてはミーティングで改善に向けて話合っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、ミーティングで報告し、職員間で話合っている。その結果を次の運営推進会議で報告し、再度検討するよう取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員会に出席していただいているが、それ以外での交流はない。		運営推進会議以外にも、市町村担当者や情報交換する機会を増やし、積極的に関係作りを行って行く必要がある。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について学習会を実施したり、1Fの受付にパンフレットを設置し、必要時はすぐに提示できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学習会を実施したり、管理者やリーダーは日頃から入居者や職員の様子に注意を払い、虐待の早期発見に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、説明を丁寧に行うようしている。特に、利用料金や看取りについては詳しく説明を行っている。利用者や家族には不安や質問がないか、必ず伺うようしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>お茶やおやつの時間を利用して、利用者の意見交換を行い、必要に応じ、管理者が個別に部屋を訪問し、意見を伺い、対応している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には、生活の状況や身体状況について報告している。金銭管理については必要に応じて、その都度、利用状況など報告し、出納帳にサインをいただいている。身体状況に変化が見られた際は、すぐにご家族に報告を行っている。月に1回施設便りをご家族に配布し、写真など見ていただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時は、話やすい雰囲気作りに努め、意見や要望がないか問いかけを行っている。また家族会を行い、意見交換を行っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は日頃から職員の話に耳を傾け、月に1度のミーティングで職員からの提案や要望を聞きながら、解決に向けて話し合っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて必要な人員が確保できるよう早出、遅出を取り入れローテーションを組んでいる。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員が対応できるようにし、受け持ち制としている。職員の離職の際には、利用者・家族に説明を行い、次の受け持ちとなる職員に引継ぎを行うようしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	職員採用にあたっては、性別や年齢を理由に対象から排除することはない。	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	人権教育について勉強会を実施し共通理解できるよう取り組んでいる。	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内だけでなく、外部の研修会や勉強会に多くの職員が参加できるようにしている。伝達講習会を開催したり研修報告書を作り、全職員が目を通せるようにしている。	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	博多区内で行われるケアマネットに参加し、勉強会で意見交換を行ったり事例検討会で他事業所の取り組みなど学んでいる。また、他事業所との親睦会に参加し、交流を深めている。	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	運営者は、日頃から職員の悩みや不安など、話しやすい関係作りに努めている。また入居者の状態に応じて、きちんと休憩時間が確保出来るよう配慮している。	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	運営者は、職員の健康状態を把握し、就業規則に従って、育児休暇など働きやすい環境作りに努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービス利用開始前は、必ず、本人との面談を行い、困っている事や不安な事など把握するようにし、話やすい雰囲気作りに努めている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービス利用開始前は、必ず家族との面談を行い、家族が不安に思っている事に対して、どのような対応ができるのか、説明を行い、安心してサービス利用していただけるよう努めている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じて、本人と家族の意向を確認しながら、医師と相談したり、居宅介護支援事業所のケアマネージャーに相談するなど、対応している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者や家族には、申し込みから、できるだけ見学していただき、安心して利用していただけるよう取り組んでいる。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意としている事を把握し、教えて頂く気持ちを持って一緒に行くことで関係作りに努めている。</p>	

グループホーム サンテラス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の心身状態や、日常生活状況など、家族に密に連絡し、ケアについても自宅での様子を伺ったり、家族の思いに耳を傾けながら話をしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	行事の時には、家族を誘い、利用者と一緒に過ごしていただいたり、家族旅行を行うなど、利用者と家族の交流の機会を作っている。また外出や外泊を促したり、病院受診に家族も一緒に付き添っていただくなど、お互いの理解が深まり、より良い関係の継続に努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	定期的なお墓参りに外出されたり、近所の友人に面会に来ていただいたり、つながりを継続できるよう支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている	お茶の時間やおやつの中には、職員も一緒に過ごし、利用者同士のコミュニケーションが円滑に行えるよう、間に入り調整役となったり、利用者同士の人間関係を把握しながら支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期間の入院となった為に、契約終了となった場合は、病院へお見舞いに行ったり、かわり大切にしている。		サービス利用の終了後も継続的な関わりを大切にしていける必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりゆなから利用者の言動などから思いを推し量ったり、それとなく確認して把握に努めている。介護計画を作成する際には必ず利用者ご家族の双方に要望を伺い情報を得ようとしている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時には面談を行い、利用者ご家族から情報を収集し入居されてからも折にふれ、これまでの生活の様子などを聴いている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者との日頃の関わりから個々のニーズや生活リズムを理解し、できるだけ総合的に把握するよう努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃の関わりから利用者ご家族から要望を聴き職員全員で意見交換し、それを基に介護計画の作成に活かしている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間が終了する前に見直しを行い。見直し以前に利用者の状態に変化が生じたら本人・ご家族・医師と話し合い改めて介護計画を作成している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、利用者の言動やどのような介護を実施したのか、誰もが理解しやすいよう記入している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診の際は、家族の付き添いが難しい場合、職員が送迎及び受診の付き添いを行いを行っている。また利用者の身体状況に応じて、看護師がグループホームでの生活を継続できるよう介護職員に相談、助言しながら支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員を通して、地域の方へのボランティアの呼びかけを行っている。		警察や消防との連携を図り、協力体制を整えていく必要がある。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者及び家族の希望により、訪問理美容や訪問マッサージを利用していただいている。また希望の内容によっては、居宅介護支援事業所や病院のケアマネジャーと連携を図っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席していただいているので、協力体制が築けるよう努めている。		地域包括支援センターとの関係を強化し、より密接に連携を図れるよう努めていく必要がある。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望による、かかりつけ医としている。受診には、基本的に家族も付き添っていただいているが、家族の都合によっては、職員が付き添いを行っている。		

グループホーム サンテラス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同法人の医師に相談しながら、認知症の専門医と連携を図ったり、協力病院の認知症の専門医に指示や助言を受けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、看護師は普段の状況を把握すると共に、利用者の健康管理や受診の付き添いを行っている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員は利用者が入院となった場合は、利用者に関する情報を提供し、入院中は状態を家族と共に説明を受けるようしながら、スムーズな退院につながるよう努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、本人及び家族の意向を確認しながら、かかりつけ医や看護師、職員を含め、話し合いを行っている。状況変化に応じて、その都度、どのような対応を行っているのか対応方針について話し合っている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人及び家族の意向を確認しながら、かかりつけ医と職員は連携を図り、終末期の対応について家族と話し合いを行っている。また状況に応じて、どのような対応ができるのか職員間でもミーティングを行いながら、支援に取り組んでいる。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際は、ケア関係者にこれまでの生活習慣や状況、ケアについて、情報提供し、生活環境の変化によるダメージを最小限に食い止めるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう常に敬意をはらい言葉づかい等にも注意し個人的な話を伺う時には居室で話すようにしている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた！納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者との会話する時間を多く取れる環境作りに努め、それぞれの希望を引き出しながら日常生活の中に取り入れ職員側で決めたことを押し付けるのではなく小さなことでも利用者に決めて頂けるよう努めている。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、利用者の希望や状況に柔軟に対応するように努め、それぞれのペースで生活できるように支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご家族や職員と近くの美容室に行ったり外出が困難な利用者は訪問理美容を利用し、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の能力を考慮し作業を分担して職員と一緒に混乱せず楽しく準備や片付けが出来るよう支援している。食事も利用者職員と一緒に取り楽しく食事が出来るよう努めている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者一人ひとりの嗜好を把握し楽しめるよう支援しており、お酒なども夕食時に提供し楽しんで頂いている。冷蔵庫も自由に使えるようにしている。</p>	

グループホーム サンテラス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、それぞれの排泄パターンを把握し声かけや誘導を行い排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援し自尊心を傷つけないようにしている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調やバイタルの変化も考慮しながら毎日利用者全員に希望を伺い好きなタイミングで入浴できるように支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し基本的に消灯時間を設けておらず、それぞれのタイミングで就寝できるよう努め、不眠の訴えがあるときには不安を軽減できるように話を傾聴したり温かい飲み物を提供し安心して休めるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来る力を把握し、それぞれにあった家事や手芸、軽作業と一緒にしたりして張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理能力がある利用者にはお小遣い程度の金額を管理して頂いている。その他の利用者は施設で管理し買い物のお金をお渡し支払いをしてもらうなど支援をしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候を考慮し、声かけし散歩やドライブをしたり近くのレストランに出かけるなど、気軽に戸外へ出られるよう支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	希望など情報収集し年間行事で計画を立て、個別や他利用者や家族と出かける機会を設けている。年に一度、家族旅行を行っている。		

グループホーム サンテラス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はスタッフルームに設置しているが自由に使えるようにしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常に玄関を開放し気軽に訪問して頂けるようご家族にも声かけをし、居間や居室で気兼ねなくゆっくり過ごして頂ける雰囲気作りを努め、お茶なども自由に入れられるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回拘束について会議を実施し、全職員がその内容を閲覧し全体ミーティングの時に拘束を行わないケアを行えるよう話し合いを行っている。また身体拘束についての学習会を実施し、共有認識を図って理解を深めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	毎月の全体ミーティングなどで勉強会をしたりして理解を深め、玄関は開放しており職員は利用者の見守りを徹底し安全確保に注意し気軽に行き来できる空間作りをする工夫をしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員間で声を掛け合い利用者全ての安全に配慮し、居室へも利用者の負担にならない程度にさりげなく訪室し、夜間は定期的に巡回をしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの管理能力に合わせて物品を管理して頂き、使用を間違えやすいクリームや歯磨き粉などは、それぞれにはっきり明記し危険防止に努めている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとの記録なので情報を共有し全体ミーティングなどで危険防止について検討し改善に向けて話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会を実施したり 緊急時の対応についてもマニュアル作成し、全職員が対応できるようにしている。		勉強会を定期的に行い訓練を行いたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	毎月様々な災害を想定し利用者と一緒に防災訓練を行い避難方法や避難経路の確認をして意識付けを行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	細かな状態の変化をご家族に報告し、それに伴うリスクを主治医や職員から説明し職員間でも情報交換し、じっくり話し合い状況の変化に早期に対応できるように取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	職員は利用者の普段の状態を把握しており、異変を感じたら速やかにリーダーや医師・看護師に報告し早期に対応できるように努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容をファイルしており、すぐに確認出来るようにしている。処方変更があった場合は、薬の内容や副作用について申し送りを行っている。また状態の変化について、記録に残すようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防のために運動や食事、水分等でコントロールを行い、間食に、繊維を多く含む食品を提供したり、乳製品も積極的に提供している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし必要に応じて介助し就寝前には義歯を洗浄し清潔保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者の希望や身体状況に応じて、常食の他、治療食や食べやすいように細かく刻んで提供している。毎食後、摂取量を記録している。10時、15時にはお茶の時間を設けているがそれ以外にも自由に水分補給できるようにしている。また身体状況に応じてお茶ゼリーを提供している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員を設置している。また感染症について勉強会を行い理解を深めている。また感染症マニュアルを作成している。利用者、職員共に、インフルエンザ予防接種を受けるなど予防に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、夜にハイター液で台所用品の消毒を行い、調理器具等は熱湯をかけ、乾燥機にて乾燥処理している。食材等は、厨房の管理栄養士の指示を受けている。冷蔵庫の食材も頻繁に点検している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	邪魔にならない程度に鉢植えや花を飾り明るい雰囲気作りに努めている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりゆず湯や菖蒲湯などで季節を感じられるよう工夫している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き一人でゆっくり過ごしたり職員と会話を楽しんだり仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		

グループホーム サンテラス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が好みの物や使い慣れた家具を持ち込んで頂き、生活スタイルに合わせて利用者の居心地のよさに配慮している。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をこまめに行い、空調も温度計と利用者の状態を見ながら調節している。また、トイレは芳香剤と換気扇で消臭できるようにして悪臭が出ない工夫をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ 浴室に手すりを設置し安全を確保している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗があった場合はその原因を見つけ出し職員で話し合い利用者の状況に応じた環境整備に努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで活動できるように活かしている	敷地内に畑を作り 職員と一緒に水やりや草取りをして野菜を育て、ベランダや居間に鉢植えなどで植物を育て日常的に楽しめる環境を作っている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム サンテラス

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の 2/3 くらいが
			職員の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の 2/3 くらいが
			家族等の 1/3 くらいが
			ほとんどできていない

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

法人の母体が友田病院で隣接しているため、利用者の健康管理や救急時の対応がスムーズに行う事ができる。また、食事は病院の厨房から配食されているので、減塩食やソフト食など、利用者の身体状況に応じた食事が提供できている。家族旅行を毎年行っており、利用者と家族の関係の継続や、交流を大切にしている。地域の民生委員を通して、保育園や小学校など、ボランティアの方との交流の機会も多い。